

# やすうら



## 佃煮を愛し、カクテルに恋をする

岩崎商店・BAR 岩崎



岩崎英記さん



グリーンピアせとうち  
などで販売



BAR 岩崎 スタンダードの  
カクテルにこだわる。

■岩崎商店 吳市安浦町水尻 1-4-1 ☎ 84-2252  
■BAR 岩崎 吳市本通 3 丁目 1-11 晃輝ビル 5F ☎ 23-6663



藤賀玲奈さん



夢はみんなで全国中学生剣道大会!  
藤賀玲奈さん(13歳)は、安浦一心館で剣道に励む中学1年生。指導者でもある父の姿に憧れ4歳から始め、現在は道場の他、安浦中学校剣道部でも精進の毎日。

昨年、吳地区の大会で「自分はまだ1年生。負けるのは怖くない」と強い気持ちで臨んだ結果、個人戦で見事優勝!「3年生に勝って嬉しかった。ドキドキした。」そうです。

剣道の楽しさを「努力の成果が試合に現れること」と語る彼女の目標は、団体戦で全国大会出場。今まで一番嬉しかったことが、県外の大会で団体優勝したことなら、一番悔しかったことも団体戦決勝の大将戦で敗れ優勝を逃したこと。責任感が強く仲間を大事に思う人柄が窺える彼女は、個人戦以上に強い思い入れがあるようです。春に後輩が入部すれば、団体戦のメンバーにも厚みが増します。今後の活躍が楽しみです。



「剣道は楽しい競技です。もっと色んな人に剣道の良さを知ってもらいたい。」と藤賀さん。頑張れ、若き剣士!

## おでかけ情報

2月 安浦かき祭り 2月23日(日) 10:00~ 売切れ次第終了  
グリーンピアせとうち 駐車場無料 安浦駅から無料送迎バス有り

4月 きらめき音楽館 4月12日(土) 11:00~ 入場無料 安浦公民館きらめきホール  
蔵まつり 4月13日(日) 10:00~ 参加費:500円 盛川酒造前広場  
いなし安浦青空市 4月19日(土) 8:00~ いなしふれあい広場

3月 安浦ミュージカル「魔法にかかったアイとトヨのなかまたち」  
3月9日(日) 15:00~ 安浦公民館きらめきホール

きらめき音楽館 3月15日(土) 11:00~ 入場無料 安浦公民館きらめきホール  
いなし安浦青空市 3月15日(土) 8:30~ いなしふれあい広場  
公民館発表会 作品展示 3月22日(土)~23日(日) 安浦公民館ロビー  
舞台発表 3月23日(日) 10:00~ 入場無料 安浦公民館きらめきホール  
献血 3月28日(金) 9:30~ ゆめまーと(イミ) 安浦駐車場

5月 きらめき音楽館 5月10日(土) 11:00~ 入場無料 安浦公民館きらめきホール

安浦の情報満載! ホームページ「やすうら夢工房」  
こちらもチェック! <http://www.yasuura-yumekobo.com/>

まちづくり情報誌

# TANTO

No.18

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261(年4回発行)



田中 敏弘 会長

## 安浦町まちづくり協議会 会長就任あいさつ

このたび、上田勝敏前会長から後任として新会長に就任することになりました田中でございます。安浦町まちづくり協議会は呉市と合併した平成17年3月に発足し、山岡正二郎 初代会長、堀尾忠男 元会長、上田勝敏 前会長が「海と緑とロマンのまち安浦」を基本としたまちづくりを推進され、いろいろな地域振興事業を行ってございました。

大きな事業として「安浦夏祭り」「安浦ええとこ祭り」への助成、伝統文化の承継、安浦の自然環境活動など活発な事業が展開されており、最近安浦町は大分賑やかになってきております。今後とも皆様のご支援・ご協力を得て、安浦町がさらに活性化するよう努力したいと思いますのでよろしくお願いいたします。

## 安浦町まちづくり協議会 の主な事業紹介

- 安浦夏祭り・安浦ええとこ祭りの助成
- 情報誌「TANTO」の発行
- 伝統文化承継事業
- 野呂川流域自然活動
- グリーンカーテン運動
- 人材育成研修事業
- ええとこ村プロジェクト事業
- 看板・マップ整備事業

## 安浦の海を守るコンクリート船

### 武智丸 その2

武智丸が安浦漁港に設置された時は、現在のように陸と繋がっておらず、住民は岸壁のガング (※1) から遠巻きに武智丸を臨んでいた。

しかし子どもにとっては格好の遊び場。泳いだり、たらいに乗って櫂で漕いで渡ったり、周りで魚や貝・カニ等を捕まえたりして遊んでいたと教えてくれたのは、子どもの頃から三津口に住む山根寛美さん。「物心ついた時には近所の景色の中に武智丸があった。舳先(へさき)にはロープが取り付けられ、そのロープを使って武智丸によじ登り、船の上から海に向かって飛び込んで遊んでいた。三津口小学校も、水泳の授業では武智丸を遠泳の目印や休憩場所として利用していた。」と、昔を思い出し話してくれました。

戦後の混乱期から、安浦の景色の一部となっていた武智丸。40年前、漁港整備計画を策定する際には、撤去の話も合ったそうですが、その船体の強固さから難を逃れたとのこと。これからも安浦のシンボル「水の守り神」として、その姿を三津口湾に永遠に留めてもらいたいものです。



昭和41年頃の風景。武智丸と護岸を繋ぐ波戸がまだない。



当時の面影を留める船体



武智丸の船内





三津口湾に並ぶカキ杭

安浦では、約半数のカキ養殖業者が、今では珍しくなった杭打ち式養殖を続けています。それは、天然モノに近い美味しいカキが育つからです。美しさの秘密は、野呂川の清流と三津口湾の海が合流する境目の環境。

遠浅の河口という立地に、きれいな水と豊富なミネラルの中で、潮の干満を利用して太陽と空気にさらすことで、身が引き締まり、なおかつ、カキが自分の身を守ろうと、栄養を身体に取り込んで逃がさないように育つため、旨味が凝縮されています。これは、天然の岩カキが育つ時の環境に近く、それ故、杭打ち式のカキは天然物に味が近いと言われます。

ただ、時間と手間をかける割に収穫量が限られているため、杭打ち式を続ける養殖業者は多くありませんが、安浦のカキの美しさをもっと知ってもらい、全国に広げていきたいとの情熱から、この手法を続けているそうです。



取付前の杭



一本一本が手仕事



美味しく育てよ。



収穫中

安浦 “なにこれ” 風景

## 大穴子の大日干し



え？これが三津口地区のおせち料理？

三津口地区では、この大穴子を干して、正月に煮染めや雑煮に入れて食べるそうです。



## 薪の炎で一家団らん

安登東にお住まいの花本茂（61歳）・衣里子（58歳）ご夫妻は10年前、家のリフォームをされた時、ご主人がかねてより興味があった薪ストーブを設置されました。

薪ストーブの魅力をお伺いすると「薪の炎を眺めると心が癒される」とのこと。遠赤外線効果で、体が芯から温まり、ストーブを活用しておいしい料理もできるそうです。

楽しい薪ストーブですが、薪を集めするのが大変な作業だそうです。木材を集めご主人自ら木を割って薪を作っています。薪作りの苦労はありますが、薪ストーブがあると暖かく楽しい団らんになります。



ひと冬に使う薪の量はこのコンテナで7つくらい

養殖力日本一の生産量を誇る広島県でも、今では安浦だけ

## 安浦の杭打ち式カキ

安浦では、約半数のカキ養殖業者が、今では珍しくなった杭打ち式養殖を続けています。

それは、天然モノに近い美味しいカキが育つからです。美しさの秘密は、野呂川の清流と三津口湾の海が合流する境目の環境。

遠浅の河口という立地に、きれいな水と豊富なミネラルの中で、潮の干満を利用して太陽と空気にさらすことで、身が引き締まり、なおかつ、カキが自分の身を守ろうと、栄養を身体に取り込んで逃がさないように育つため、旨味が凝縮されています。これは、天然の岩カキが育つ時の環境に近く、それ故、杭打ち式のカキは天然物に味が近いと言われます。

ただ、時間と手間をかける割に収穫量が限られているため、杭打ち式を続ける養殖業者は多くありませんが、安浦のカキの美しさをもっと知ってもらい、全国に広げていきたいとの情熱から、この手法を続けているそうです。



是非、全国に安浦カキブランドの名を轟かせて欲しいものです。

伝説と昔話

第8話  
安浦の民話シリーズ

安浦町は古い歴史があり、数々の民話や伝説が生まれてきました。子から孫へと後世に残る素晴らしい贈り物。古くから語り継がれてきたお話をシリーズで紹介します。

だいじん

## ボラ大尽

て、大雨の時、岡の上の古い墓が流されたという話を思い出しました。久太郎は「お告げは、墓の主の魂が流された骨の元に戻りたがっているに違いない」と直感し、岡の下に小さなお堂を建て、子之浦の天徳寺からお坊さんを呼んで供養してもらいました。

その夜、金箱の岡の上に、七つの赤い火の玉が見えたかと思うと、下に向かってゆらゆらと飛んでいき、新しく建てたお堂の中に入っていました。

その後、久太郎が海でボラ網をかけると大漁が続き、立派なお屋敷を持つ程の大金持ちになって、村人からボラ大尽（だいじん）（※2）と呼ばれたそうです。

※1 多くの船や網を持ち、漁師を雇って魚を捕らせる人  
※2 資産家、大金持ち



昔、三津口村に久太郎という網元（あみどん）（※1）がいました。ボラの集まる時期には、小日之浦の岬に檣を建て、ボラの群れが入り江に入ってくるのを見張らせ、網に追い込んで捕まえるのですが、他の網元に比べ、久太郎の網には思うように魚が掛からず、いつも情けない思いをしていました。

ある夜のこと、久太郎は夢の中で「わしを下へ降ろしてくれ」とのお告げを聞きました。最初は気にも留めませんでしたが、次の夜も、また次の夜も同じ夢を見たので不思議に思い、村人に相談しました。しかし夢の話をまともに聞く者は誰もいませんでした。

ある時、小日之浦の金箱と呼ばれる岡に登った久太郎は、頂上に建てられた新しい石棺と墓を見つけ



現在の小日之浦（グリーピアせとうち“子どもの国”の沖あたり）

写真でみる今と昔

安登東5丁目付近「跡条」



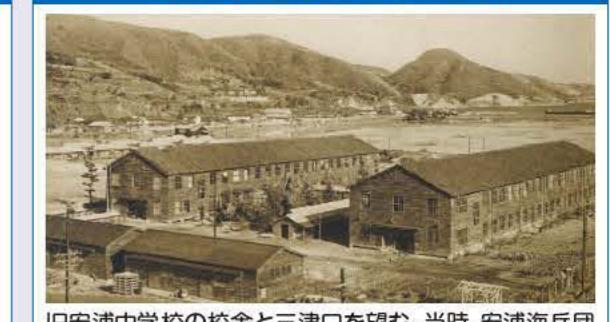
跡条の風景 跡条川と右に勘定神社を望む。一面に田園が広がる。【昭和43年】



安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景をご覧ください。

中央5丁目付近「晴海園」



旧安浦中学校の校舎と三津口を望む。当時、安浦海兵团兵舎を利用した。【昭和32年】



現在は工場、バイパス、晴海園団地など、町の中心街として変貌し、当時の面影はない。